

## ニセナシサビダニによるナシのモザイク症状の被害抑制技術

### 1 近年増加する葉のモザイク症状

近年、「幸水」や「あきづき」などの品種で、新梢の先端付近の葉がモザイク状に色が抜けたり（図 1）、新梢の茎や果実の軸に裂傷が生じる（図 2）「モザイク症状」の被害が増えてきています。これは、ニセナシサビダニが媒介するウイルスが影響していることがわかってきました。そこで、モザイク症状の被害を抑制するための試験に取り組みました。



図1 「あきづき」新梢に生じたモザイク症状



図2 「幸水」幼果に生じた果梗の裂傷

### 2 ニセナシサビダニとは

ニセナシサビダニは体長約 0.2mm の極めて微小なダニで（図 3）、肉眼で観察することはほぼ不可能です。

このダニはナシにのみ寄生し、ナシの新梢の柔らかい新葉を吸汁加害します。ナシの枝や幹の隙間で越冬し、展葉後は新梢の伸長とともに先端に移動しながら増殖し、6～7月頃に発生盛期を迎えます。従来は、新梢に「さび症状」を引き起こすことで知られていました。

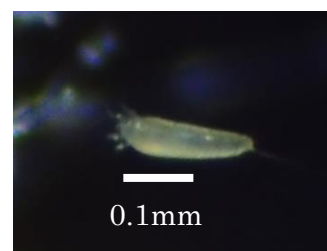


図 3  
ニセナシサビダニ成虫

### 3 モザイク症状の被害抑制試験

モザイク症状は早い年には4月下旬頃から発生するため、従来のさび症状の防除（5～6月）では間に合いません。一方、ニセナシサビダニは硫黄剤に弱いことが知られていましたが、生育期の散布はナシに薬害を起こす恐れがあります。

そこで、発芽前の3月中旬に水和硫黄剤2剤（クムラス、コロナフロアブル）を散布し、ニセナシサビダニの個体数とモザイク症状の発生を調べました。その

結果、いずれの薬剤でもナシ新梢葉におけるニセナシサビダニの発生を5月下旬まで低密度に抑制でき（図4）、モザイク症状の発生を5月中旬まで抑制することができました。（図5）

### 3 注意する点

ナシの発芽後に水和硫黄剤を散布すると薬害が生じる恐れがあるため、発芽前に散布しましょう。

水和硫黄剤の散布によりモザイク症状の発生を5月中旬頃まで抑制できますが、それ以降の対策として5月上中旬にニセナシサビダニに登録のある殺虫剤（モベントフロアブル等）を散布しましょう。

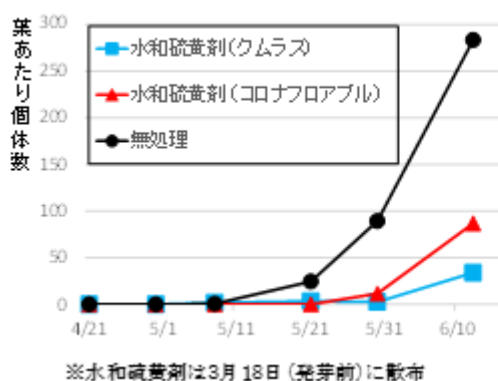


図4 ニセナシサビダニに対する  
水和硫黄剤2剤の防除効果

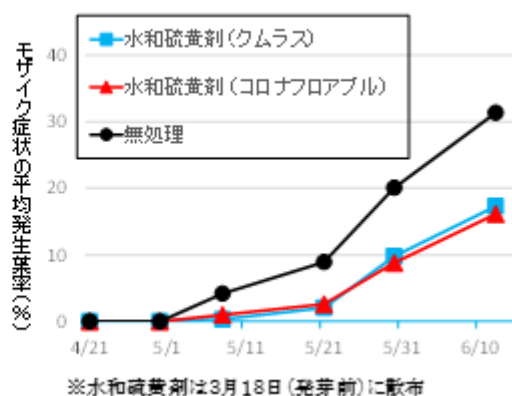


図5 モザイク症状に対する  
水和硫黄剤2剤の防除効果

#### 【問い合わせ先】

埼玉県農業技術研究センター 果樹担当

電話：電話 0480-21-1113（久喜試験場代表） FAX 0480-29-1021

0480-21-1141（直通）